

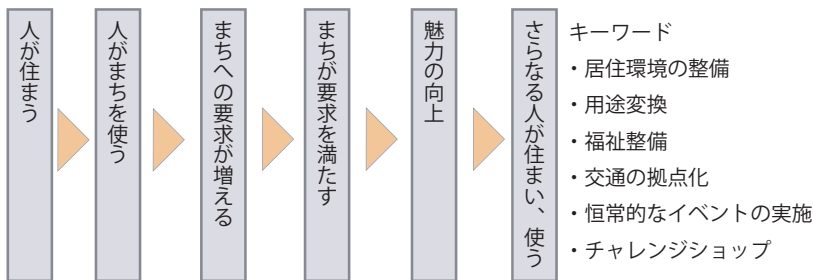
人の生活の「系」が失われたまちは再び人の生活によって取り戻される必要がある。
このキーワードになるのは「住まう」というごくあたりまえの行為である。
この「住まう」ということを取り戻し、まちの「系」の回復をめざす。

■コンセプト

空き床の様々な活用

柳ヶ瀬での起業家支援

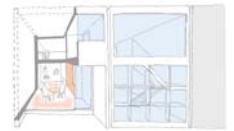
交通拠点整備



- キーワード
- ・居住環境の整備
 - ・用途変換
 - ・福祉整備
 - ・交通の拠点化
 - ・恒常的なイベントの実施
 - ・チャレンジショップ



交通の拠点化
フリッジパーキングなどの機能を
整備し、人を引き込む



シェアハウス
既存店舗を改修して若い世代が
用いるシェアハウスをつくる



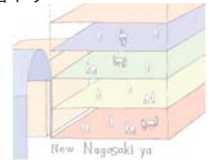
軒先の美化推進
コンテストなどのイベントにより
軒先の美化を推進する



空き床の住宅転用
空き家・空地に住宅機能を整備し、
居住者を増やす



アーケードの撤去・整備
まちの美観を損ねている一部の
アーケードを撤去する



大型空き店舗の用途変換
長崎屋・旧センサを福祉施設に
用途変換する



コミュニティ道路の整備
歩行者の主要動線となる
コミュニティ道路の景観整備



通りの継続利用
チャレンジショップなどの補助を
することで、夜間でも利用率を保つ

	柳ヶ瀬まちづくり基金		行政		通りの使われ方	
	商	住	ハード	ソフト	営業時間 (1日)	空間
現在					3 6 9 12 15 18 21 24 3時	既存店舗
初期	屋外イベント (昼)	モデル事業 (シェアハウス整備)	センサ1の改修支援	介護福祉 専門学校誘致 地域支援センター	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	屋外 イベント
中期	屋外 チャレンジショップ (路上・軒先) 定期イベント	シェアハウスオーナーの新規募集・支援	駐車場の集約 住宅整備	交通対策 特別養護老人施設誘致	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	屋外 チャレンジショップ
長期	屋内 チャレンジショップ (共同店舗) 空き床の斡旋・改修支援 商機能の連続	空き床の斡旋・改修支援 カーシェアリング 老朽建物の建て替え支援	旧長崎屋の改修支援 バスターミナル整備 歩行者環境整備	旧長崎屋 チャレンジショップ誘致 広域交流の活性化	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	屋内 チャレンジショップ
成熟期	恒常的な賑わい	まちなか住宅市場の活性化	平面駐車場の住宅利用推進 センサ2の改修支援	グループホーム誘致	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	店持ち

■住・商の相互発展

まちづくり基金は住と商において事業を行う。初期にシェアハウスやイベントで通りに人を呼び込む。中期ではシェアハウスの拡大や夜間の屋外チャレンジショップを行うことで、常に通りに人がいる状態を生み出す。長期では一般住居の展開や屋内チャレンジショップの开店により、様々な人・産業の重層化をはかる。成熟期では人や産業の重層化が進み、通りに商店の連続性が生まれる。商と住が一体となり段階的に発展することで、地域としての魅力が増加し、活気あるまちとなる。

■柳ヶ瀬の拠点化

行政は、本地域の核となる施設・政策を行う。まちづくり基金では行えない本地域の拠点化を公共福祉の一貫として行う。ハードに関しては、現在分散して存在する駐車場を集約しフリッジパーキング化する。その後、歩行者や自転車支援を行う。ソフトに関しては、専門学校や介護施設の誘致、ICカードの共通化を行う。専門学校は福祉施設と共同で地域やその周辺部の高齢者支援を行う。

■通りの時間・空間利用

現在、既存店舗は夜間の営業が少なく人が寄り付きにくい。そこで、屋外イベントやシェアハウスにより通りに一定の利用を確保したうえで夜間のチャレンジショップを行い通りの利用価値を向上させる。さらに屋内チャレンジショップ、一般店舗と段階的に増やしていく。様々な人・産業が重層化し、通りの時間・空間的な多様性が生まれる。また、商業は重層化によるインキュベータによって入れ替わりが行われ新鮮な通りが維持される。